IV-JAPAN

NEWS【NO.11】2008.11.30 発行

＜目　次＞

1 ﾍﾟｰｼﾞ…東芝国際交流財団助成事業
2～4 ﾍﾟｰｼﾞ…創立 20 周年特集Ⅱ（お便り紹介）
5 ﾍﾟｰｼﾞ…ＪＩＣＡ事業（ラオス職業訓練）
6 ﾍﾟｰｼﾞ…SIA 事業（ラオス女子高校生自立支援事業）
7 ﾍﾟｰｼﾞ…幸子のラオス便り/お知らせ/千客万来
8 ﾍﾟｰｼﾞ…総会報告/寄付者一覧

東芝国際交流財団助成事業

～２００８年度　ヴィエンチャン日本語および日本料理指導～

東芝国際交流財団は 1989 年に国際交流と対日理解の促進を図るとともに国際社会や現地社会に貢献することを目的に創設され、ラオスでの初めての国際協力事業開始にＩＶ－ＪＡＰＡＮが選定されたのは 2000 年のことです。おりしもＩＶはヴィエンチャンに職業訓練所を建設しており、その開所記念行事に日本文化（華道・茶道）の講師派遣を同財団の助成で行うことができました。以後 2006 年まで毎年日本文化紹介事業に助成金をいただきました。ラオスでは日本文化より電気製品や自動車の名前で日本がよく知られておりましたが、毎年「KNOW JAPAN」－日本を知ろう－を実施することで、日本の書道、遊び、折り紙、着物体験等ラオス人にとって日本が身近なものになりました。大使館はじめＪＩＣＡ等からもこの事業は歓迎されました。
同財団第２フェーズとして、よりＩＶの国際協力事業を応援するため、今年度からはヴィエンチャン職業訓練所の上級コースに２名の日本語と日本料理の専門家を２期にわたって派遣することになりました。第１期派遣は７月～9 月に終了しました。第２期派遣は来年１月～2 月にかけて実施します。

ユニークな日本語教授

日本語指導中の中尾広子さん

元資生堂社員中尾広子さんは７月 24 日から、上級コース３分野の訓練生を２クラスに分けて、「接客サービス」を念頭においた日本語指導を２週間実施。お辞儀の仕方、目や手の位置等、言葉がわからなくても通じるプロの接客方法に訓練生もびっくり。自身を磨き、服装や化粧等も注意するようにと指導。調理分野は全員２週間ノヴォテル・ホテルで接客サービスを体験しているので、中尾氏の講習に皆納得。最低必要な接客日本語を学習しました。当会の上級コースの職業訓練では日本語検定を受検する日本語教育ではなく、接客に必要な日本語教育が求められていますので、まさに適切な講師が派遣されました。
資生堂との関係は 2001 年８月に当会代表の冨永幸子が「アスペン・エクゼキュティブ・セミナー」に NGO 関係者として招待され、資生堂の福原義春会長(当時)や池田敏秀商品開発部長(当時)にお目にかかり、セミナーの合間にＩＶのラオスにおける国際協力活動についてお話をさせていただきました。翌年 2002 年にはラオスの当会職業訓練美容コースにタイ資生堂プロフェッショナルのタイ人講師派遣が実現し、池田氏をはじめ紅谷伸六氏等関係者がラオスを訪問し、同コースの開講式に参加、通産大臣へも表敬訪問いたしました。2004 年には「資生堂アジア･ヘアー･カット・アカデミー」をラオスで開催し、ラオスの美容業の振興に寄与されました。2005 年 12 月には池田執行役員(当時)及び大矢和子社会貢献部長（当時）が美容コース閉講式に出席されました。また、国内では当会が毎年招聘するラオス青年民族舞踊団の日本公演で多くの同社社員のボランティアによりモデルを引き受けていただき、日本公演を成功裏に終了することができました。さらに本年 3 月には資生堂開発株式会社建設部の協力によりラオス職業訓練所生徒寮建設が完了しました。このような活動から資生堂社員のラオス理解が深まり、協力関係が長年に亘り続いております。

ラオス料理と食材が似通う琉球料理

沖縄出身の渡久地澄子さんは９月４日から訓練寮に宿泊して毎日市場へ通い、自炊をしながらの１ヶ月間のラオス滞在でした。現地食材を利用した日本料理でないと、コストもかさみ、利用度も低いと判断してのことでしたが、幸い琉球料理と食材が似通っていること、ラオス語のビントウ（弁当）は沖縄でも使用されていたりで、共通の文化の発見に大喜びでした。

調理の指導をする渡久地澄子さん（右写真奥）→

創立２０周年記念特集（part2）

今年5月1日に創立20周年を迎えたＩＶ－ＪＡＰＡＮの記念行事が5月24日、25日の両日、東京と埼玉でそれぞれ行われたことは前号（IV-NEWS№10）で報告させていただきましたが、その続編として、記念行事にボランティアとして大変ご尽力をいただいた方々や長きに亘り多大なご援助・ご協力をいただいている奨学金ドナーの方々等からお寄せいただいた20周年を迎えてのお便りをご紹介**させていただきます。尚、紙面の都合上掲載数が限られてしまいましたことご理解いただけますと幸いです。**

★創立20周年事業を終えて

（特活）国際協力NGO・IV－JAPAN
２０周年記念行事募金委員長　**雪山　光恵**

20周年記念事業として東京･埼玉で２日間のチャリティーコンサートを会員始め多くの協力者のお陰で終えることが出来ましたこと、深くお礼申し上げます。私達埼玉の会員は１年前から自分達の役割を自覚し準備を進めて参りました。収支の予算をたて、企業広告やチケットの価格決め、何度も何度も仕事の合間の時間をやり繰りして集まりました。成功させるには楽しくやらねばと、藤田副代表、縫製ボランティアの関矢さんは会合の度に手作りの昼食を持参、私達の疲れをいやし満腹にさせて下さいました。事を始めるにはかかる費用が集まるかが一番の課題でして、知人、友人一人ひとりお願いに上がり、多くの方々に協力頂きました。企業広告も予定以上に集まり、私達の活動に賛同し、大口寄付者中川社長、パンフレット作成も無料提供して下さった仲社長、事務局の井藤さん、男性の佐復さんは力仕事からドライバー役を受けて下さいました。埼玉会場の川口市民パートナーステーションも、市のはからいで全室無料で提供頂き、当日は10年間も多額を協力し続けて下さった太田様も和歌山より上京。陰から支えてて下さった埼玉会員、知人、友人、多くの方々の支えがあって成功裏に終える事出来ました。今後共当会の活動を通し変わりゆくラオスを感じて頂けましたら幸いです。　感謝。

★ラオスとの交流、過去から未来へ

（特活）国際協力NGO・IV－JAPAN
副代表理事　　**吉野貴美子**

職場に３０年勤めたことで１か月の有給休暇をもらった私はタイとラオスを訪問する事にした。1997年4月、11年前の事である。ラオスは全く初めて訪れる国で、最貧国の一つであるという事ぐらいしか分かっていなかった。当時は国際ボランティアの会の代表だった冨永さんが、仕事でラオスへ行くので同行させてもらう事にした。まだラオスには事務所もない頃で、ヴィエンチャンやシェンクアーンでは、冨永さんはホテルからあちこちと電話をしてアポイントを取り仕事を進めていた。

私は青少年の育成を生業としていたので「ラオ青年同盟」の総書記兼青年大臣を訪問し青少年事情を伺ったり、ラオ青年同盟で職業訓練や文化・スポーツ活動の現場を見て回り、ＪＩＣＡやＳＶＡ（シャンティボランティア会）を訪問、またシェンクアーンでラオスの実情を垣間見るにつけ日本で青少年に開発教育をすることの意味合いの大きさを考えさせられた。

それから７年、職場を辞め自由の身となり毎年１回ラオスに通っている。今は研修所や立派な寮まで備えたＩＶ－ＪＡＰＡＮであるが、問題は沢山ある。特にラオスで働こうとする若者が少ないのが現状である。冨永さんの後を継ぐ人が出てくるのだろうか。ＩＶ－ＪＡＰＡＮを未来に繋げるために長期の戦略を考える時ではないか。

★ルアンを応援しています

正会員　　**斎藤　加代**

ルアンが日本での研修成果をすでに職場で生かしていると聞き、とてもうれしく思っています。

ルアンとの付き合いは２００３年１１月にラオスを訪れた時からです。穏やかな人柄と前向きな仕事ぶりをいつも見ていたので、冨永代表から「ルアンを日本で勉強させたいが旅費のメドが立たない」と聞かされた時には迷いもなく旅費を出させてほしいと申し入れました。私がラオスに行く時は、寄付していただいたタオルや衣類をタソモ小学校と現地事務所に運び、帰る時は重量オーバーになる位ラオスシルク製品やコーヒー等を買い込んできます。何時もはそれを友人や知人に販売して得た収益を IV-JAPAN 運営費に役立ててもらっていましたが、ルアンの話があってからはその収益をすべて旅費のためにプールしました。ありがたいことにラオスシルクは人気があり、また友人達もそれを買う事でラオスの青年の役に立つのであればと皆協力してくれました。約２年間で目標達成！今回のルアンの日本での研修は、大勢の陰の協力者がいたお陰で実現しました。協力して下さった皆様に感謝です。そして、今後の彼の活躍を大いに期待しているところです。

★ルアンさんを迎えて

カプリチョーザ両国店　　**齋藤　暁子**

数年前より実母がサポートしている IV-JAPAN ラオス事務所より 2008 年 6 月に調理研修生としてルアンさんがやってきました。「とにかく人柄が良く、頑張り屋さんなので出来る限りサポートしてあげたい」との母の希望で私達姉弟が経営するイタリアンレストランで約 1 週間衛生管理に重点を置いた研修を行いました。ランチタイムと週末は地元のお客さんで賑わいとても忙しいレストランなのですが、ルアンさんは積極的にお皿洗いや片付けを手伝ってくれ、「ルアンさんは本当に働き者ですね」「英語も上手で日本語も勉強中なんて優秀ですね」と若いスタッフにとても良い刺激を与えてくれたようです。またパスタやピザの作り方を教えてくれたからと調理スタッフにフルーツカービングを伝授してくれました。とても上手に出来たルアンさんの作品をランチタイムのバイキングに飾ったところ常連のお客様から「ぜひ指導してほしい」とお願いされる一幕もありました。今後ラオスの職業訓練校にて指導されるとのことですが、すばらしい指導者となることを祈っております。最後になりますが IV－JAPAN のさらなるご発展を応援しております。

★２０周年記念行事参加 ・ ラオス青年の行動記録

（特活）国際協力 NGO・IV－JAPAN
理　事　　**佐復　正雄**

4/3～5/20　ラオス職員ルアンを関空に高倉昌子先生お迎え、奈良のお宅と日本料理店で日本料理研修。

5/20～22　上京し、藤田副代表宅で研修。

5/23　招聘したラオス民族舞踊団３名が成田空港へ到着、飯田監事とお迎え。京成・ＪＲで両国カプリチョーザへ斎藤加代さん・太田親子同行し浅草～銀座見物。ルアンと留学生カンタヌーさん合流する。

5/24　ＪＩＣＡ地球ひろばで創立 20 周年記念ラオス報告会・パーティ。関矢綾子さん宅へ。

5/25　川口市パートナーステーション「キュポラ」で創立 20 周年記念ラオス報告会。山梨県八ヶ岳山麓の齋藤英美さん別荘へ移動する。

5/26　吐龍の滝・天女山・清里高原。カンタヌーさんは滋賀へ戻る。富士宮市市営田貫湖バンガローへ向かう。快晴の富士山が見られた。関口さん・亀山さん参加。

5/27　富士スバルラインを通って５合目まで行く。南アルプス望める駐車場の残雪におおはしゃぎ！午後 2：00 ラオス大使館表敬訪問・秋葉原電気街～深夜・飯田監事宅。

5/28　飯田監事と友人(大塚さん)・小生、成田空港へ見送り。民俗舞踊の３青年元気に帰国。

5/27～6/6　ルアンは吉野理事宅。JICA 地球ひろばでフルーツカービングの実演とラオス紹介。

6/7～9　松島精一さん宅。温泉を経験。

6/10　森千秋先生の調理研修。

6/10～18　大泉学園の大竹千歳さん宅、両国カプリチョーザ（斎藤加代さん娘・息子経営）で研修。

6/19～21　池田敏秀さん宅で農業体験と家庭料理。

6/22～25　飯田監事宅で会席料理、茶道研修、海釣りも体験。　ラオスへ帰国。

★ファッションショーと子供たち

元資生堂執行役員　　**池田　敏秀**

IV-JAPAN が成人式ならば資生堂の活動なんて七五三みたいなもの、そうだ今度のファッションショーには子供を出してみよう、３月ルアンパバーン滞在中、メコンの河のほとりで小鳥と鳥かごを売る少女たちを見ながらそう思った。帰国後、肝心の子供モデルが集まるか心配だったが、全くの杞憂に終わる。親の心意気だろう。自分の子供にいま何が一番大切かをしっかりと見ている、そんな同僚や部下に誇りを感じる。６年前、古典と哲学を勉強するセミナーで冨永代表に会いその志に共鳴し、資生堂というこぎれいな池の中におなら程度の小さな渦を創りだしたが、その渦は着実に大きくなり、今回の２０周年記念報告会には５０名の資生堂関係者が何らかの形で加わった。美を提供する化粧品会社の社員として身につけなくてはならないもの、失ってはいけないものを学ばせてもらってきた。与えたものより得たもののほうがはるかに大きい、いま誰もがそう感じている。

資生堂の皆様（於・ＪＩＣＡ地球ひろば）

民族衣装をまとい、笑顔さえ浮かべる子供たちは５月の涼風。動きが早く素人カメラマンはシャッターチャンスを逃しっぱなし。会場は７人の主役に沸き、大人モデルは存在感が不安になるほど、まさに一陣の風が広尾を吹き抜けた。

思えばラオスという国もまた七五三くらいかもしれない。でも可能性がいっぱいあるうらやましい国だ。とても洗練された国になる予感すらある。富ませることだけが幸せでないという事実を噛みしめながら、もう少しお手伝いをさせていただこうと思っている。

☆奨学金ドナーの方々からのお便り紹介

IV-JAPAN 創立２０周年を迎えられたとのこと、誠にお目出度うございます。衷心よりお祝い申し上げますと共に、長年に亘る御苦労に対し、敬意と感謝を申し上げます。何年か前の或る日、新聞でカノック奨学金の事を読みました。そして歳取った自分に代わって後進国の向上のために働いて下さる人が居るなら些細乍ら協力させてもらおうと思いました。子どもから礼状が来ると「あゝ良かった」と嬉しく思います。アジアの日本の信頼高揚の為頑張って下さい。

金指　五郎

創立２０周年おめでとうございます。１０数年前に私もタイ・スタディツアーに参加させていただきました。その時から IV-JAPAN の活動内容に共鳴し、まず身近にできる国際協力という事でカノック奨学金を始めました。現在も継続中です。これからも続けていければ最高です。IV-JAPAN の更なる発展をお祈りいたします。

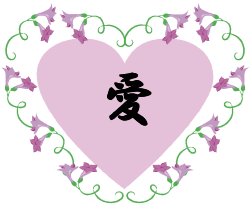
宗像　邦司

２０周年おめでとうございます。カノック奨学金ニュース№.１の一面に冨永様が書かれた文章が手元にあります。初期の理念を裏切ることのない今の活動に敬服いたし、このような会に微力ながらも関われましたことを幸せに思います。私たちの会も同じ年に発足しました。女性の職業訓練・識字教育の推進は、私たちの会の活動理念の一部分でもあります。御会の一層の充実を願っております。

ウイメンズめぐろ

２０年にわたる国際協力に努力される貴会に敬意を表します。継続するだけの私どもの僅かな醵金に感謝状は恐縮です。ヴィエンチャンの空港で冨永さんにお会いしたのは 99.1.14 の夕刻でした。貴会のお働きの一端を拝見。寄贈した新しい学校で喜びに溢れる子供たちの顔を見て、羨望を含めた深い感銘を受けました。新ＪＩＣＡの発足に当たり、貴会の心根を取り込んで欲しいと強く思った次第です。

木暮　秩・道子



私の国際協力は９６年４月ボランティアの会タイツアーに参加したことから始まる。
戸もない粗末な教室で真剣に勉強しているタイの小中学生を見て涙したことを覚えている。職業訓練センター、会からの図書館寄贈など感動的なツアーであった。以来、ネパールの学校支援、パレスチナ聾学校支援…を続けている。これも冨永さんの生きた活動する姿から学んだものである。
会の繁栄を心から祈る。

栗原　敏子

タイの奥地の農村の子どもたちに教育の機会を与えられたらと願って、日本で応援して下さるドナーの方を見つけたいと思うんだけどどう思う？富永さんにトレーナーセミナーで声をかけられ１も２もなく賛同をしまして以来２０年も経過したのですね。当初は中古のフォークリフトの輸送の件や資金の捻出等、幾多の困難を乗り越えられ、景気が悪くなると賛同者も減って来ると言う悩みも抱えながら、タイのみならずラオスで子供たちに知識や技術を深めさせ、職業指導を行い、学んだことを社会に出て活かし、経済的に自立していけるように心を砕いて居られる冨永さんの素晴らしい働きや努力にタイやラオスの人たちがどれ程喜んで居られるかが目に浮かんでくるようです。「人に役立って生きる」というお手本を示して下さっていることに敬意を表しています。ＩＶ－ＪＡＰＡＮの今後の発展充実を祈っております。

賀元　澄子

十数年前定かに覚えていませんが、Ａ新聞にタイでボランティア活動しているカノック奨学金の事を知りました。当時１万円を寄付すれば１年分の学費として、小・中学校に行かれない貧しい子供たちのため有効に使われるとのことでした。私も現在 91 歳、妻 86 歳、過酷な戦中戦後の惨めさを体験し生きてきました。今日亜細亜の次の世代を背負う子供の平和で楽しい時を送れることを祈って、年金生活者ですが貧者の一灯として命ある限り援助して行きたいと思っております。

足立　毅平

←左写真は２０周年式典で踊る
ラオス青年民族舞踊団
（於・ＪＩＣＡ地球ひろば）

本当に多くの方々に支えられＩＶ－ＪＡＰＡＮは20周年を迎えることができました。そして未来へと続きます。ありがとうございました。

ＪＩＣＡ草の根パートナー事業・ヴィエンチャン職業訓練

～第３期ヴィエンチャン職業訓練～

―現地に支援が広がる多彩な講師陣―

2007 年に始まったＪＩＣＡ草の根パートナー事業では中級コース、上級コースの講師は日本を始めオーストラリアやタイから講師を招聘しておりましたが、個人ボランティアはご主人の病気や家庭の事情等で招聘が難しいこともあり、又、オーストラリア・ビジネス・ボランティア協会は申請から派遣までに約半年かかるため、第３期はラオス現地で講師を探すように努力しました。おかげさまで長年の活動でＩＶの現地における認知度が高まり、中級コースの外部講師にラオス現地社会から多くの応援を受けました。現役で働いている人が多いため、丸々1 ヶ月間を拘束することは難しく、交代で講習していただきました。ラオスもプロの専門家が多く育っています。

調理中級コース

西洋料理１ヶ月間、日本料理１ヶ月間、スモール・ビジネス・マネージメント２週間、復習２週間の３ヶ月間となっています。西洋料理にはレストラン協会会長の「ナーダオ」のオーナーシェフ（写真）がフランス料理の講習に来てくれました。フランスで修行したサヤウット氏は事前にＩＶのキッチン機能や調理器具の点検に来て、これなら大丈夫と、当日は包丁を何本も持参し、又、自ら工夫して作った調理道具持参で来ました。「ナーダオ」は予約しないと席がないくらいポピュラーなレストランですが、そのすばらしい料理を惜しげもなくたくさん紹介してくれました。さらにテーブルセッティングもフランス流、イギリス流、アメリカ流と迷うことが多かったのですが、明快に教えていただきました。この講習の様子はヴィエンチャン・タイムス（英語新聞）にも紹介されました。
又、ノヴォテルホテルのチーフシェフにも忙しい合間に来ていただき、お料理ではなくコックとしての人生を訓練生に語っていただきました。何も知らなかった若い頃に単なる就職先としてホテルに入社してコックの道をはじめたが、努力の甲斐あってチーフにもなり外国からも招聘されているが、今の仕事に生きがいがあるとのことです。料理も盗み見て覚え、英語も独学、今もＮＨＫの料理番組を毎日見て日本料理を研究しているそうです。やはり、1 に努力、2 に努力なのですね。訓練生も大変勉強になりました。
西洋料理３人目の講師は「ゴンドラ」というイタリア・レストランのシェフが来てくれました。ラオスで人気のスパゲッティ、ピザ、パスタを中心に、種々のソースも習いました。
そして基本と隙間を調整したのはＩＶのトレーナーたちで、すでに４年近い経験で中級コースはスムースに運ばれました。
中級の日本料理は今年４月～6 月の３ヶ月間日本で研修したＩＶ職員のルアンが張り切って教えました。新しいメニューも加えて、職員たちは試食が楽しみでした。お世話になった日本の皆様に感謝です

美容中級コース

バンコクのＯＣＣ会社（資生堂関連会社）からは３回目の派遣となったノイ先生です。彼女はタイ北部のチェンライ県出身ですが、文化・言語がラオスと似ているためラオ語が話せます。民族衣装のスカートのシンを好んで着て、訓練生たちにとても慕われました。ＯＣＣ会社からは２名のメークアップ指導者がＯＣＣ負担で派遣されました。ＯＣＣは指導者の手が足りなくてもラオスのためにやりくりして応援してくれています。ここにも南南協力（発展途上国が発展途上国を援助する）が実現しました。
中級ではヘアーカットの練習を兼ねてドンコイ村にカット・ボランティアに行き 100 人を超える村民の髪を切りました。（写真）

縫製中級コース

紳士服制作には地元で紳士服ブティックを経営しているトーン氏が来てくれました。自宅が遠いため寮の講師室に泊まって１ヶ月間指導していただき、ＩＶのトレーナーも自信を持って教えることができるようになりました。紳士サファリスーツ等は人気のアイテムです。

第３期初・中級は５月～9 月の５ヶ月間で、修了生は調理 17 名、縫製 12 名、理美容 20 名、合計 49 名でした。10 月からの６ヶ月間の上級コース（ＯＪＴ）への進級者は１８名です。

彩の国さいたま国際協力基金助成事業（SIA 事業）

～ラオス女子高校生の自立のための職業訓練～

9 月から 12 月の毎週火曜日と木曜日の放課後、ヴィエンチャン職業訓練所の斜向かいにあるシコタボン高校の 30 人の女子生徒が当訓練所に通い調理、縫製、美容の 3 種の職業訓練を受けています。この事業は 14 歳～15 歳が対象になっているため、職業訓練のほかに毎月の土曜日午前中を使って、「良い社会人」となるための青少年健全育成も合せて実施します。ラオスでは高校を卒業しても大学が少なく進学できない者、また産業が少ないため就職の機会も限られ、ドラッグや売春のような非行に陥ることが社会問題になっています。ウイークデーの職業訓練は当訓練所トレーナーが担当し、土曜日の講師はタイや日本のガールスカウト関係者や教育省学校制度外教育開発センターの講師が「救急法、ドラッグの恐ろしさ、環境教育等」を実施しています。写真はガールスカウトの教育方法を取り入れてゲームで楽しく学ぶ生徒たちです。職業訓練トレーナーは全員タイガールガイドの指導者養成コースを受講し、リーダーの資格を取りました。社会主義の国ラオスにはガールスカウトをはじめＮＧＯは存在しませんが、学校制度外教育開発センターの講師たちは環境教育のプログラムを見て、とても良い教育内容だと感心していました。この事業に協力を惜しまないタイガールガイド連盟に深く感謝します。そして日本のガールスカウト沖縄支部ボランティアリーダー４名にも感謝。

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

写　　真

① トレーナーから指導を受ける高校生（理・美容）
② ミシンの練習中（縫製）
③ 焼飯を調理中。調理コースの高校生の楽しみは放課後のお腹が空いたころ出来上がるお料理が試食出来ること。
④ ゲームやソングを取り入れて楽しく学ぶ。
⑤ 救急法で学んだ人工呼吸を練習する女子高校生。
⑥ 三角布の使用方法を教える津波さんと仲地さん
⑦ ガールガイドタイ連盟による 3 日間のリーダー養成講習会修了生。全員がリーダーとなった。
⑧ タイガールガイド連盟派遣のトレーナー2 名（制服）、もう 1 人はボランティアのラオス国立大学社会福祉学科のヤイ先生。
⑨ 沖縄の 4 人のガールスカウトリーダー。写真左から津波さん、又吉さん、冨永、渡久地さん、仲地さん。

幸子のラオス便りNo.17（２００８年１０月３１日）

―４２年ぶりのメコン川の洪水―

地球温暖化の影響が世界のあちこちでおきているようですが、ラオスでは８月初旬の連日の豪雨でラオス北部・中部で１９６６年以来のメコン川の大規模な洪水が首都ヴィエンチャンをはじめルアンパバン、カンムアン、サワナケート等のあちこちで見られました。８月６日から１４日の９日間の総降水量が平均で１００mmから２００mm、多いところでは、３８２．８mmを観測しました。ヴィエンチャンでは８月１１日にメコン川が警戒水位（１１．５０m）に達し、翌１２日は１２．５０mを越え、１５日にはさらに１．１７m上回るピーク水位１３．６７mを記録。１９６６年の大規模完水では飛行場をはじめ、タラサオ（朝市）のあたりまで水害にあい、そのときの水位より１．１m高く、市内は緊迫した状況になりました。日本大使館からは食料、飲料水の貯蓄を促すメールや洪水情報が毎日来ました。ワッタイ飛行場は低地のため、飛行機の発着が危ぶまれました。１２日に仕事で遅く帰宅してメコン川沿いのタデゥア通りを走っていた時に、トラックから砂を降ろしてたくさんの人が袋つめ作業を行っていました。すごくみすぼらしい身なりですが、とても若い人たちで何事かと思いましたら、学校や役所から借り出されたボランティアでした。首相命令でヴィエンチャン都はすべての政府職員、軍、学生、地元住民を総動員し、建設業者の協力でメコン川の土手１９Kmに砂のうを高く積み上げる作業が毎日１６日まで徹夜で見られました。あちこちで道路が遮断され、毎日通勤経路を変えなくてはなりませんでした。ヴィエンチャン都教育局の幹部は毎日防災会議につめていて、予定されていた会議もキャンセルされました。地方からも兵隊が２４時間体制で集められ、ラオス人の友人が陣中見舞いに行き、必要なものは水と食物とのことで寄付金を集め調理して運んでいました。私がラオスに住んでから経験した２回目のラオス人によるボランティア活動です。１回目は２００５年のスリンカ、インド、インドネシア、タイが津波被害にあったときのチャリティ・コンサートのボランティア活動です。

一部地域の冠水で終わりましたが、一時はどうなるかと毎日心細かったです。

被害総額約５．５億円、死者１１名、約２０万人が被災、日本からは１２００万円相当のの緊急援助物資が供与されました。

＊写真左は冠水したメコン川。右は土手に積み上げられた砂のう＊

お知らせ

～タイ事業（縫製職業訓練）の閉鎖について～

タイ・スリン県で実施している縫製職業訓練センターの近くに大きなＩＴ縫製工場が建ち、１人を残し他はそこで熟練者として働くようになったため、１９９７年より当会が支援してきた事業を閉鎖することにした。ムアンケイ小学校内にある職業訓練所の建物とミシン等は同校に寄贈し、継続している１人は同校で洋裁を教えることになった。今後タイは奨学金事業だけになるが、昼間のラオス職業訓練や放課後のラオス女子高校生の職業訓練のためのタイトレーナー派遣は今後も継続。途上国同士で協力し合う「南南協力」の良い例となるでしょう

千客万来

８月８日　早稲田大学３７人　　***８月２０日***　参議院議員ＯＤＡ調査団・中村哲治氏他７人、地元大使館、ＪＩＣＡ等総勢１５人　　***８月２７日***　九州大学１５人　　***９月１日***　流通科学大学７人

９月１６日　日本青年海外派遣…団長・吉田康雄氏、副団長・鈴木晶子氏、他１５名の青年

＜お便り＞こんにちは。鈴木晶子です。ラオス滞在中は、お世話になりまして本当にありがとうございました。お会いできたこと、とてもうれしかったです。冨永さんのバイタリティあふれる姿に、いつもとても刺激を受けます。小林さんも（帰国してからまだ実際に会えていないのですが）、冨永さんにお会いできたこととても喜んでくれました。先日、日比谷公園で行われていたグローバルフェスタでも、Iv-Japan のブースが出展されていて、覗かせていただきました。わたしが、いまこうしてラオスに関わっていることの、一番最初の種を蒔いてくださったのは、タイでのワークキャンプだったので、本当につながりの不思議を感じずにはいられません。今後、どのようにラオスと関わっていけるのか、わたし自身見えていないのが本当のところですが、あせらずに細く長くでもラオスと関わっていけたらいいな、と考えています。

どうぞ、くれぐれもお体にお気をつけてお過ごし下さい。ありがとうございました。鈴木晶子

１０月１６日　外務省ＯＤＡ調査団

ー国際ボランティアの会沖縄事務局（IV-JAPAN の旧称）ご寄附ー

女子高校生の事業を率先して応援していただき、４人のガールスカウトリーダーたちを派遣してくれました。募金も集め、ラオスで必要なものに使ってくださいと＄1,000（約 10 万円）をいただきました。ソングやゲーム指導で声をからしていた冨永を見かねて写真のスピーカーセットを購入して下さいました。(右写真)

第５回　通常総会開催（於：さいたま市立生涯学習総合センター）

2008 年 6 月 7 日（土）に通常総会が開催され、以下の事項について審議を行い承認されましたことをご報告いたします。

・2007 年度　事業報告・決算報告　　支出合計　3,732 万円（承認）
・2008 年度　事業計画・予算　　2,090 万円
・創立 20 周年記念事業収支報告

≪2007 年度事業報告概要≫

1. 日本全国より奨学金ドナーを募り、タイ、ラオスの子供たちとラオスの職業訓練生 196 名に奨学金を支給し、教育の底上げに寄与した。
2. ヴィエンチャン職業訓練/理美容、調理、縫製（JICA 草の根パートナー事業 1 年目）
   ラオス住民の経済的自立支援のための職業訓練を JICA との契約をもとに実施した。オーストラリア ABV 及び（株）資生堂、タイ OCC 協力事業。
3. 青少年のためのスポーツ教育振興（彩の国さいたま国際協力基金）：ヴィエンチャン都内の学校の校庭にバレーボールコート兼バトミントンコート兼セパタクローのコートを建設し、併せて同スポーツのワークショップを教員を対象に行い、スポーツを通して青少年の健全育成を行った。
4. ライオンズクラブ支援事業　:東京ウイルライオンズクラブの支援により 06 年度家具職業訓練基礎コース(07年 6 月事業実施）と07年度事業家具コース を実施した。東京ウイルライオンズの支援により建設されたナーケーオ小学校の井戸に練馬ライオンズクラブと東京ウイルライオンズクラブの有志で屋根を設置した。
5. 寮建設事業（外務省日本 NGO 支援無償資金協力）：ヴィエンチャン職業訓練に参加する遠隔地訓練生のための寮建設。08 年 3 月ヴィエンチャン都へのハンドオーバー式を実施した。
6. 第 10 回ラオススタディツアー:成人会員の中から 9 名の参加者があり、ラオスを通して途上国の実情を知り、当会のプロジェクトを理解してもらうためのツアーを実施した。

カノック奨学金ドナー紹介　（2008/7/1 から 2008/11/30 まで）順不同

佐藤美津子（３口）、沖野和利、根橋淑江、片山純子（２口）、河口道子、岡庭史子（２口）、島　慶子、和田冶江
又吉ミチ、藤春裕美、中村哲治、津波紀伊子、仲地輝美、戸田昌子、だるま会（３口）、亀島裕子（２口）

運営・プロジェクト費寄付者一覧
（2008/7/1 から 2008/11/30 まで。一万円以下は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

(財）埼玉県国際交流協会（２５万円)、(株）資生堂（２０万円)、(社）倫理研究所（１０万円)、
国際ボランティアの会沖縄事務局（$１，０００)、松島精一（$２，４８７）　　―敬称略―

＜サポート会員募集＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します
① 奨学金ドナー　年１口　12.000 円以上
② 国際協力費又は運営費ドナー　★個人 年１口　3.000 円以上　★団体及び法人 年１口　１０．０００円以上

・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下４桁の明記をお願い致します)

郵便振替　:(口座番号)　00140-5-537168　(加入者名) カノック奨学金
銀行振込　:埼玉りそな銀行浦和中央支店
(普通)　口座番号:5038052　名義人:(特非) 国際協力 NGO・IV－JAPAN

【特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・IV-JAPAN】

日本事務所
〒331-0058　埼玉県さいたま市西区飯田 426
TEL:048-622-8612 / FAX:048-625-0271
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

ラオス事務所
P.O.BOX 7920 VIENTINE, LAO P.D.R.
TEL/FAX: +856-21-26-1240
E-mail: ivjapan@laopdr.com

http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/